

# かていやく

昭和42年11月5日発行

題字・藤井得三郎氏

## 信頼ということ

総務委員長

坂本藤四郎

庭の奥でボール投げをしていた五才になる孫が突然大きな叫び声を出した。出て見ると植込みの中に入ったボールを拾う拍子に手をついて、指の先にはらの大きなトゲが突きささったのである。

さし出された手を見るとトゲの先端が皮下でおれていた。このトゲを抜くには先づ傷口を少し広げなければならぬ。私は一瞬ためらった。

子供の痛みを軽くするためにはまづ余分の痛みを加えなければならぬことを小さな子供にどのように説明したらよいかと考えた。この子供が、彼の願いに反することを受け容れるほど私の愛情を信じているだろうか。痛みを軽くするにはより大きな痛みを加えなければならぬ。子供は私の顔のほうに眼をあげて、私の微笑を見ると、すべてを私に任

せてくれた。

犬に対してこれと同じような問題に遭遇していたとすればもつとむづかしい事態になっていただろう。不注意にもネズミ取り器に脚を取られた犬の場合を考えて見よう。犬の脚を畏からはずすには、まづ脚を前にのばしてやらなければならぬ。つまりネズミ取り器の奥の方に脚をもつとのばして、傷ついた脚を畏からはずしてやらねばならない。このことを犬にどのように説明するのか？

犬は本能や盲目的な経験から後ずさりして脚を後ろにひこうとする。そうすればするほど脚は畏に締めつけられる。ところで私はその逆に犬の脚を畏の奥の方へ押しやろうとする。犬が私の声によく慣れていなければこれは成功しないだろう。

子供は私が彼の幸福をねがっていることを直観的に見抜いたのだ。また犬はいつも優しく可愛がって貰っているのを私を信用し安心して任せ呉れるだろう。

さて以上のことは私たち大人の社会においても同じであろうと思う。私は人を信頼することの出来る幸福、また信頼されるという事の貴さと、責任の重大さ、について深く思

いをいたす次第である。それにつけても私どもの家庭薬は長年の伝統と、大衆に根をおろした強固な地盤とにより、国民の広い層に愛用され、国民保健のために貢献しつつあるが、その根源をなすものは、常に大衆と共に歩んで来た家庭薬に対する、強大な信頼感にあるといえよう。

私どもは各々の製品に確固たる信念と自信をもって研鑽努力いたし、もって大衆の信頼に応えねばならぬ。かく努める事によつて我が家庭薬は大衆に愛され、信頼を深め、その将来は国民大衆と共に益々栄えてゆくであろう事を信ずるものである。

(東京不二製薬社長)



玉置弘三氏



①② リオ・デ・ジャネイロ  
コパカパナ海岸

(AV ATLANTICA は海岸通りの本名ですが、実際は裏の通りの名、COPACAPANA が通称として使われています。その為めスライドには AV ENIDA ATLANTICA とあります。誤りではないので念の為め)

① 之は夏ですが、冬でも半分位の混み方でにぎわっています。歩道のモザイクが美しく又、立並ぶビルは大部分アパートです。



②



③

③ イグアスの滝

幅が世界一です。パラグアイとブラジルの国境にある「友愛の橋」の近くにあり滝はブラジル・アルゼンチンの国境を流れるアルトパラナ河にあります。



④

④ 台湾桐

アマゾン河の一支流アラスカ川の畔にある日本人移住地トメアスで見た台湾桐です。之が植えてから4ヵ月日だそうです。桃栗一年柿三年、といわれるだけあって成長の早いのに驚ろかされました。

## 変っている国

### いい国

### これが南米です

津村 重孝

六月、七月と二ヶ月歩いて来た中南米のことが日本であまりにも知られて居ないと、長い目で見て我々が無関心では居られなくなるだろうと云う意味もあるので、不完全な観察ではありますがまとめてみました。

先づ世界地図を拡げて下さい。ブラジルのサンパウロからアルゼンチンのベノスアイレスの附近は、大体日本の丁度裏側に当ります。だから当然のことですが私の行った時はこの辺は真冬でした。ベノスアイレスではホテルはスタッフが気持よく感じましたがやはり何となく妙な気分でした。そんなに離れているのだから判らないのは当たり前だと云ってしまえばそれまでですが、日本では本当に何も判っていないのだなあとう事をまず第一に感じました。出発

する前に南米に滞在された事のある何人かの方々にお会いしてお話も伺ったのですが、私にあまりにも予備知識がなかった故か、まるで違ったイメージを持って居たと云う事到着早々に知らされました。地球でも裏側まで来ればこうも変わるものかとつくづく感心したりあきれたりしたものです。最初に降りたのはリオデ

ジャネイロの国際空港です。何処の国でもよくやる様に機内で税関への申告用紙がくばられました。あまり正確に書いても税金がうるさいと思つたので前から使っているハミリとカメラそれにサンブル・常備薬位を書き、後はPERSONAL・EFFECTS(身廻り品)としておきました。先づ入国手続きをする為に駅の改札口の様な処に一列に並びました。半分位はアメリカ人の様でしたが黒人も居れば素敵なスペイン系の美人も居ます。なるほど南米は人種の展覧会だな等と思つていました。どう云う訳か入口は三、四箇所あり、係らしい人も何人も居るのですが一つしか開いていません。その内に顔役らしいのが来て列のうしろの方に居た人をつれて来て閉まってる入口を開けて出て行きました。一寸不愉快になりましたがあるいは

外交官等の特殊な人達かも知れないと思いかえして順番を待つていました。

やつと順番が来て手続きを終え次の部屋へ入りますとそこが税関の荷物検査室です。ここは案外きれいな明るい部屋でした。何処の税関にもある荷物を並べる台が何列か有りましたので、一番手近な台の端に順番を待ちながら荷物をのせカバンの蓋を開けながら何となく前の番の人の検査の様子をみていました。すると税関吏がスーツケースの中の小さな鞆を指さして「何か」と聞いたのでしょう——ブラジル語は判りませんがそうらしいと思いました。——ブラジル人らしいその人はハミリだと答えて入れ物を開けました。税関吏は直ぐに頭をふりながら早口にしゃべり初めました。その人の胸にさげている古いカメラを指さして話している処を見るとどうも二台の写真機はいけないと云っているらしいのです。乗って来た航空会社、パンアメリカンの若い係員も口添えしているのですが税関吏は断乎として受付けません。スタモンの揚句税関吏はその人をほっておいて別の台の荷物を調べ初めてしまいました。パンアメリカンの人もそんな筈はない

と例の乗客と英語で話しています。二台のカメラを持つている私は困った事になったものだと思うのですが言葉は通じませんし不安になって来ました。そこでその若いパンアメリカンの世話係に聞いてみようと思つて例の申告用紙を差出した処、一目見るなりサッと取上げてまるめてしまふのです。アツケに取られていると新しい用紙をくれて「詳しく書いて下さい。EFFECTSとだけお書きなさい。さもないと大変な税金をとられますよ」と小声で云うのです。すっかり慌ててしまい、二台のカメラの事を聞くのも忘れて大急ぎで書直しました。別の列に行った税関吏はと見ると、移って行った初の乗客は家族が五人も居て荷物が十数個もある中国人の一行です。之を調べているので仲々済みそうもありません。とうとう他の人は全部済んでしまつて難癖をつけられた人と二人きりになつてしまいました。パンアメリカンの世話係の姿も見えないし二台のカメラの事でゴタゴタしたら困つたなと一寸心細くなつて来ました。と突然横の方から別の税関吏がつかつかとやって来るなり何にも見ずにアツ

と云う間にOKのサインをしてニコ

ツと笑うのです。ホッとしたりとは云え何とも妙な気持ちになりました。

さて旅行している間にブラジルに住んでいる人達に二台のカメラは課税されるのかと聞いてみたのですがどうとうハッキリしませんでした。

「そうかも知れないね」とか「そんな筈ないんだがね」と云うだけで課税の基準は判りませんでした。税関とか税務署等では何事も話合いで決まる事が多い様です。極端な人は会社はまともな税金を払って居てはつぶれてしまう。何でも上手に話合ってゆくより仕方がないし、みんなそうしているのだ、と聞いていました。が、あるいはそうかも知れないと思います。だからと云って全ての税関吏が規則をたてにワイロを取る事だけを考えていると云う訳ではなく、ある人はきびしくしてワイロで話合に應ずるし、他の人は何でも見のがしてしまう。ワイロを取った人でも気が変れば何も云わない事もある。要するにゆうゆうとあまりガメつくない程度にやっていると云えます。まあいいじゃないかと云った処でしょう。こんな扱いをされている人達も別に目に角をたてて騒ぎ出しなどしないのが普通です。何とかうまく立廻りたいものだと思ってチャンス

をねらってはいるのでしようが表面は静かなものです。

何事もハッキリとときまってしまうのはかえって具合が悪いと感じているのではないかと思える様な事にくつも出合いました。

サンパウロには何局かのラジオ放送局がありますが、時報はみなまちまちで一番早く打つ時報と一番おそく打つのとではひどい時には二、三分も違う事があるそうです。まあいいじゃないかと云うのでしょうか。誰にも気にしません。よく考えてみれば二分や三分どうだって良い様にも思えて来ます。サンパウロで泊ったホテルはオットンパレスと云う処で皇太子殿下もお泊りになった一流のホテルです。朝食を何度も部屋に運んでもらいました。ブラジルではコーヒーにたっぷりミルクを入れたのとパン位が朝のきまりもので、マニヤン・カフェ(朝のコーヒー)と云う言葉が朝飯と云う意味になっている位です。そのミルクが立派な銀器に入ってくるのですが多い時には四杯分以上ありますし少ない時には二杯そこそこしかありません。値段はどうなのかとおっしゃるのでしようが勿論一緒です。そんな事が気になるのは日本人だけじゃないかと思われ

ます。

交通信号も緑が消えないうちに赤がつき、ややしばらく両方ついたままになっていてから緑が消えます。二世の人に之はどう云う訳なのか、一体進めなのか止まれなのか判らないじゃないかと云った処、交叉点に入ってから急に赤になったら困るじやないか、と反問されました。どうもそう云われてみると理屈は有る様ですが赤と緑が両方ついている信号機を見ていると落ち着きがなくなつて来てしまいます。

さて、南米のこれらの国々での生活ですが、最低生活・文化とは全然縁のない生活をするなら決して困らないと云っています。ちょっと田舎へ行けば必ず手のつけてない原始林があり、それが誰のものであろうと勝手に一・二町歩切り倒して焼き畑を作るのです。マンジョカ芋なら小さく切つて土にちよつとさしておけばすぐ取れる様になります。見付かったら番人に話をつければ大抵は見のがしてくれれます。どうしても駄目なら、他のそんな処を見付ければ良いのです。五町歩や十町歩問題にしない人が沢山居ます。それ程広く何千町歩ともっている人も沢山居るのです。「日本人は変ですね、境界か

らわずか二、三米入った処の木を切つたと云ってケンカをしています」と云った二世が居ます。一区画二十五町歩づつを分けるのが移住地の一般的な話ですから境界の何本かの木の事で争う暇に耕してない自分の土地で仕事をした方がいいと云うそんなこせこせした考えからじゃないか、と云う事のようにでした。

こんな風習と云うか考え方が一般的であるのはラテン系民族の本来の性質である楽天的なところから来ている事はたしかですが、それに加えて豊かな国土がますます助長したのだらうと思えます。二日分の賃金を払えば翌日は休んでしまうそうですし、監督の仕事をするよりも良い賃金を払うといつても、大部分の人はあまり興味を示さないと云う事です。そんなにあくせく働いたって仕方がないじゃないか、と云うのでしよう。生活をする為に、楽しむために働くのだという考えに徹していません。

アテ アマニアン、と云う言葉があります。文字通り直訳すれば「明日まで」と云う事ですが、軽い意味で「サヨナラ」「じゃあ又ね」と云う様な意味に使われます。この「ア

テ「アマニアン」と云う言葉が南米のスローモーション振りを代表しているのだと良く云われます。仕事の話をしても最後には「アテ アマニアン」だ。いよいよ明日はきまると思つて行くと又アテ アマニアンで終つてしまふ。その次の日もその次の日もと云うわけでいつまでたつても「アテ アマニアン」で一向進まない。たしかにそんな傾向もありますが、この言葉を文字通り受取つて「明日迄」と云う意味だと決めるのはどうかと思います。

「郷に入つては郷に従え」です。俺ならそうやるさ、とおっしゃるでしょう、私もそうでした。そうしていれば南米は住みいい処だと思つたのです。たしかにそうなのですが、考え方があまり違うので時々ハッとします。ブラジルでは国産品に対する色々の課税が安いのです。そして国産品とは五〇パーセント以上の国産原料を使ったものとなつています。この五〇％は何によつて決めると思われませんが、普通なら価格だと思われましょう、処が重量だと云うのです。そんな不合理な事はおかしい、例えばクリーム等瓶だけ国産ならいいのか、と云つた処、価格は変動するけど重量なら変らないじゃ

ないですか、と云われました。

こんな事も何もかも一向に気にならない様になり、そして大いに工夫をして日本式に一生懸命働くとしたならば、南米はたしかに良い処です。その上日本人は大いに尊敬されているのです。全部輸入していたコーヒの袋の原料でコートを作つて輸出する様にし、コショウを作つて世界一であつた東南アジアに取つて変り、野菜の供給を一手に引受ける

と云つた事が全部日本人の手によつて初めて出来たのです。農民がいくら土地や機械をもらつても日本人をつけてくれなければ何も出来ないところと云う笑ひ話をTVでやつていたと話してくれた人がいました。そんなに信用されているのです。国土が豊かで良港にめぐまれ、気候も良く人種差別がなく、日本人は一番尊敬されていると云うこんな処は他には見当たらないと思ひます。私達とはまったく違つた考え方をもちているので一寸まごつきますがなれてしまえばその方が楽かもしれません。こせこせした日本に見切りをつけて南米に行くのも悪くないと思ひます。それはさておき南米について何かお知りになりたい事がありましてたらお申越し下さい、私の判つてい

る事でしたら何時でも喜んでお報告いたします。(津村順天堂・専務)

## オーストラリア 見たり聞いたたり

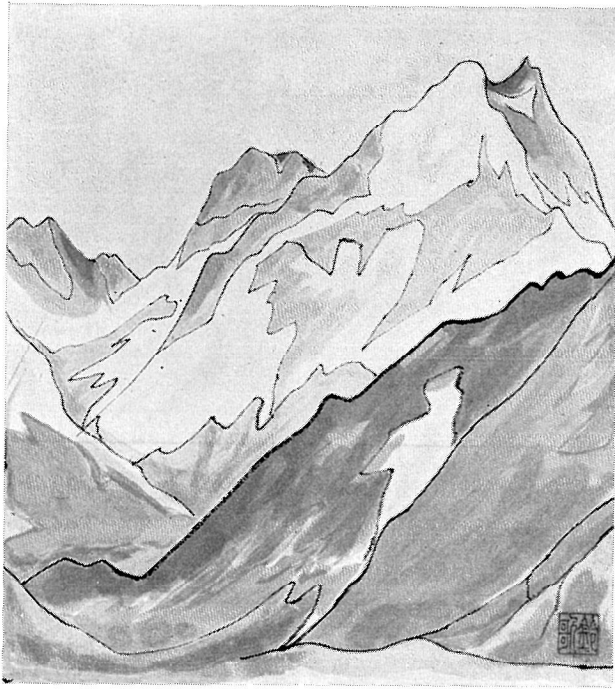
歌橋 一典

本年二月末から四月初めまで三十七日間にシンガポール、豪州、ニュージーランド、フィリッピン、香港、マカウをロータリー訪問団の一員として廻つて来ましたが、「かていやく」に原稿のご依頼をうけてから忙しいまま、私達が南半球の豪州、ニュージーランドを訪ねた夏から秋へ入ろうとする季節が日本にやつて来て仕舞いました。何しろ一日当り一千キロを飛びあるいた計算になる旅行だったので、全体をまとめることがむずかしいので、主として豪州(オーストラリア)について「見たり、聞いたり」のいくつかを書いてみることにしました。

『白豪主義とスノウイ、マウンテン計画』

豪州は地図で見ても大きな国、面積は日本の二十一倍に近く然も人口は一千万人余(東京都の人口)しかなく、それも東海岸から東南部の都市にその三分の二が集中していることから広大な未開発の地域が如何に多いか、資源開発のために必要な労働力を如何に確保するかに重要な関心を持たねばならぬかとお解りいただけると思います。地形と気象の關係から人口の集中している東海岸に沿つた分水嶺の西は雨がなく、せいぜい牧草が生える程度のところであり、中央部は全く砂漠状態のところもあります。この様に大分水嶺以西の地域を農業適地とする灌漑用水を確保し、同時に水力発電のためのダム建設を推進しているのが、スノウイ・マウンテン計画です。政府はコロンボ計画に参加し、SEATOを支持しており、世界の食糧政策に寄与するためにこの計画をすすめ、そのため公社が設立されています。然も出来る限りのスピードで完遂しようとし、オーストラリアの色々な計画の中でも最も積極的におすすめられているように思われます。

この場合労働力の不足を如何にして補うかということですが、この国には百年以上にもなる労働組合組織



があり、彼等の主張する白豪主義（安い労働力によって自らの職場を失うまいとし、当初は華僑をしめ出すのが目的であった。）が根強く残っています。然しこの大事業を遂行するための労働力を得るためにヨーロッパからの移民を受け入れ、英語教育を行うことによって自国民との同化を積極的に計ることが根気強く併行してすすめられています。この辺に白豪主義の近代化がある様でもあります。

白豪主義と関連して日本人に対する誤解を生む例としてこんなことがあるそうです。日本からある会社の社長さんが豪州へ来る様な場合、現地の日本商社はお互いに競争関係にあるにもかかわらず、実際には激しい競争があるがために各社が我も我もと一緒に飛行場へ出迎えるような事がある。この場合豪州人は華僑のやり方である同族、同郷、協同、グループ意識によって共同して歓迎するものと受取る。そのために日本人に対しては華僑と同じに考えることがあるので注意して欲しいというの

がシドニーの本多領事の話だった。各地をまわってみて、日本人の優れた技術力、能力はこの2、3年、特にオリンピックの成功によって認識されており、南北問題の重要な折から相互に協力出来るよう一般の交流をもっと活発にする事によって真の理解に到達し白豪主義にもかかわらず、日本人の受入れが認められるようになってほしいものです。

『首都キャンベラの建設』  
キャンベラが首都になる決定をしたのは一九〇八年で、メルボルンとシドニーの両市のほぼ中間に国家がN・S・W州から土地を買収してA・C・T（オーストラリア、キャピタル、テリトリー）をつくり、特別区域として国が直接扱っています。首都の建設に当っては一九一一年基礎設計をアメリカのグリフィンという人に依頼し、それに基いて一九二四年から開発を始め、現在の議事堂の完成と共に一九二七年に首都をキャンベラに移したといえます。現在もA・C・T諮問委員会というものが

あり、将来の計画を着々と推進中ですが、その計画によると現在人口九万六千のキャンベラが一九八〇年には推定人口二十八万五千としてグレート・キャンベラ造りをすすめています。広大な地域に政府機関、居住区域、商業区域、学校区域、公園等々をうまく配置し、ワシントンにも

### △スケッチについて▽

マウント・クック

歌橋 一典

3月17日快晴のウエリントン飛行場を出発するときクック山まで果して行けるかはクライストチャーチまで行ってみないと解らないという。幸いこの日はDC-3が飛ぶことになる。南アルプスの山々に近づくにつれ、氷河地帯特有の万年雪で覆われた山並みに変わってくる。飛行機はハーミテージというタスマン氷河のつくったU字谷の保養地に着陸、スケッチはここからのものである。クック山にかかる曇雲は天気の変わる前ぶれで、午後の便はここに着陸できないという。湖畔の町クイーンスタウンまで行くにはU字谷を車で飛ばして40マイル程離れたブカキという原野の臨時飛行場まで行かねばならなかった。

まけない美しい首都を造成しようとしています。日本の首都東京を考えると全くうらやましい限りです。この計画にしても全く長期にわたるもので彼等の考え方、アングロサクソンの息の長い、無理をせず、しかも着々と推めてゆくやり方には商売の面でも一脉相通するものがある様に感じます。

### 『税金の話、その他』

多かれ少なかれ日本人は税金、税務署で悩まされている。個人であろうと、法人であろうと対策が優先し、本末顛倒とさえ思うこともある。そこへゆくと豪州の税制は聞いた範囲ではうらやましい限りだ。全くの申告税制で、領収書、証憑書類の保存も不要、税務署も調べに来る事もないという。申告者がサインし、チェックで払込むことによってこれを尊重するという事である。このあり方は何から来るのだろうか。

民主主義の基本的原理とも言うべき「自主的な個人の尊厳」ということにすべての人が徹しているという事であろうか。日本ではまず疑ってかかる！この辺にあり方の大きな差があるようだ。

ガス、電気料金の払込みにしても、会社から払込期限を記入した請求書が来る。それによって払込むのが当り前であり、一定期限を過ぎて払込まないと翌日からガスでも電気でもピタリと止まってしまふ。言い訳は通用しない。この様なあり方は一体日本では通用するだろうか。考えさせられる問題である。

「子供がパンをぬすむ」という事があった場合、その母親が罰せられるという事である。家庭におけるし

つけ、教育の厳格さ、責任のあり方を示すものであろう。

それでは脱税という事は無いのだろうかというところでもない。ある議員の脱税が新聞のトップ記事になった事があるそうだ。翌日その議員は辞任してこの事件はケリになったという事である。追徴金という様な問題ではなく、その人の人間性の問題なのである。あくまで人間性の善を信じた税制であると言えよう。

(ニチバン・社長)

### 句集〈溪泉〉に

よせて 玉置石松子



インスタントのプレハブ住宅というものが大そう便利で、流行していると聞いています。しかし、十分材料をえらび、枯らした材木で造った純日本建築の足もとにも及ばないのは仕方がありません。

日本酒をつくるのも、材料を吟味し、じっくり寝かせて、はじめて芳醇な美酒ができるのだそうです。

岡田銀溪氏の句集〈溪泉〉がこんどできました。前回の句集は、二十五年前の銀婚記念の△しろがね▽でした。△溪泉▽は金婚を記念されたものです。いわば、四半世紀枯らした良材、じっくり寝かせた美酒の味です。

言葉というものは、抑制があつてはじめて文学として生きてくるものだと思います。饒舌は決して人をうつものではありません。

日本画のポイントには余白にあります。余白こそ画家のもつとも苦心するところ巧拙の分かれるところですよ。

俳句も抑制があつてこそ余韻を生じます。銀溪氏の作品に共通していることは押しつけがなく、素直であるということですよ。だからこそ、読者は抵抗なく、受け入れ、味わうことができますのです。もともと俳句は独白であつて説得ではない筈です。

近ごろ、やたらとマンモスビルが建ちならび、威圧します。空間をたつぷりとつた桂離宮の余韻。この句集はそのように清々しく、うるおいのある大人の文学です。

端正で、しかも温かいお人柄を象徴する教句を挙げておきます。

(岡田銀溪氏は本名正二。当組合の前身である東京都家庭薬組合の

専務理事。「わかもと」の営業部長として、奇蹟的発展をもたらした名アイデアマンとして著名な方。現カイゲン顧問。俳人協会員、水明編集員であり、埼玉県俳句連盟会長として後進の育成に力とめ、本町句会の常任ゲストとして敬慕されている)

電光ニュース読む間も霧のとどまらぬ  
黒富士に野火美しき宵きたる

鳴かぬ禽ひて葉ざくらの日をこぼす  
柿もいでゐてわが影を見失ふ

大神輿傾けば街かたむけり  
蟹の穴八方に抜け足痒し

鼻はつきり映りて秋の水硬し  
白昼の夾竹桃は睡魔の巢

囲ひたき句碑あり冬の椿咲く  
紫陽花の珠起しては剪りまどふ

枕逃げやすし木屋町明け易し  
犬の嗅ぐもの山百合のほかには

秋の風つかむ千本の仏の手  
鍋釜を杉菜に沈め飯場解く

遂に一僧も見ず禅林澄みわたり  
三田社句碑乱立して寒し

春風邪にもう少年でない体臭  
ひともとの紅葉と古りぬ薬学部

さぎの痢がかすめし汗の鼻つさぎ  
露の野に佇つ間サラリーマンでなし  
(玉置製薬・代表取締役)

〈座談会〉 つつき

福利厚生  
いろいろ

出席者(敬称略順不同)

榊津村順天堂	船越日呂義
イチジク製菓(株)	古賀 熊人
ニチパン(株)	高橋 清
榊太田胃散	隅田 格
玉置薬業(株)	地葉 一郎
中村化成産業(株)	富田 清泰
三宝製菓(株)	志村 光一
救心製菓(株)	森下 勇作
榊金冠堂	市川 一雄
河合製菓(株)	北 治孝
双葉製菓(株)	及川 郁夫
大木製菓(株)	鈴木 喜雄
榊堀内伊太郎商店	村上 保
司会	
友田製菓(株)	友田 真二
弘報委員長	堀内伊太郎
厚生副委員長	町田 弘

(於 湯河原)

**D** 私の社では全社員に交通障害保険をかけております。これは一月百円なんですけれども、万一死亡した場合八十万円。それからケガした場合は八十万円。それからケガして一日働けない場合も見舞金がもらえます。月額八百円です。去年の九月から入りましたんですけども、もうすでに三人ばかり見舞金をもらっております。たとえば自動車の運転手さんがちょっと追突されて、どうも具合が悪いというので二週間ばかり休みました。それでもすぐに見舞金が出ました。その当時の補償は五十三万五千円ですから、月額五百三十五円で、十日ぐらい休んで五千三百五十円を見舞金としてもらいました。この間も地下鉄で電車に手をはさまれて全治一週間という診断書をもらってききました例がありました。

**H** 交通戦争の時代ですからね。各人がかける年がけのやつはありますけれども、会社が月々かけるというのは非常に珍しいですね。

**G** 私のほうでも交通じゃなくて、全部の障害保険ですね。たとえば家庭で手をケガしたとか、階段から落ちてケガをしたとか、とにかく医者について、医者の診断書があれば大体日額でいまは四百円から千五百円、見舞金として。それを保険でもらって差し上げるようにしております。これは公傷私傷を問わず払ってます。

**司会** これはなんというんですか？

**G** 傷害保険です。もちろん交通も入ります。ともかくケガをしてお医者に行つて、医者の診断書があれば、全治二週間ということならば、毎日会社に出られるような程度の傷であつても見舞金として出します。

**司会** この保険料はどのくらいですか？

**G** 保険料は年払いでやつております。全額会社で負担しておりますから、大体一人、ちょっとかけ金は覚えておりませんけれど、保険金としては一人二十万から五十万までです。やつぱり毎月三、四人おりますですね。たとえば野球をやつて突き指したという程度のもも入るわけです。

**司会** だいぶ話題が分散しておりますけれども……。定着性をいかに高めるかという問題も非常に大きな問題でございます。各社それぞれお話しがあつたように積極的な手を打つておられるんですが、その中で特にこういう手は効くんではないかと

いうような問題はございませんか？

**H** ただの感でございますけれども、戦後の労働法では足止め策としての昔のタコ部屋的なもの、そういうものは実際禁じておるわけです。その時点には非常に労働力の余った時点だと思つて、今日の労働力が逼迫してきて求人難の状態、それから戦後の教育の影響か、労働環境の影響か、各労働者が仕事をを選んで選べるほど非常に少ないという時点になつてきているんじゃないかと思つて、選択の自由は法律によつて保障されているんですけど、なかなかある時点までは選べないんじゃないかと、相当の能力があれば別ですけども……。しかし今日になつてきまして、そういう普通の状態でも選べる、毎日の新聞の広告欄なんかを見ても相当な募集広告を出しているというのが実情じゃないかと、この求人難、それから会社側からみれば、一度入つた者の定着性が非常に薄いという面で困感している状態です。当社においてもやはり定期に採用したものは非常に定着率が高いんです、九十%です。中途で入れたものについては定着率が悪くて、場合によっては全部やめてしまうというところもあり得るわけです。

**G** 傷害保険です。もちろん交通も入ります。ともかくケガをしてお医者に行つて、医者の診断書があれば、全治二週間ということならば、毎日会社に出られるような程度の傷であつても見舞金として出します。

**司会** この保険料はどのくらいですか？

**G** 保険料は年払いでやつております。全額会社で負担しておりますから、大体一人、ちょっとかけ金は覚えておりませんけれど、保険金としては一人二十万から五十万までです。やつぱり毎月三、四人おりますですね。たとえば野球をやつて突き指したという程度のもも入るわけです。

**司会** だいぶ話題が分散しておりますけれども……。定着性をいかに高めるかという問題も非常に大きな問題でございます。各社それぞれお話しがあつたように積極的な手を打つておられるんですが、その中で特にこういう手は効くんではないかと

いうような問題はございませんか？

**H** ただの感でございますけれども、戦後の労働法では足止め策としての昔のタコ部屋的なもの、そういうものは実際禁じておるわけです。その時点には非常に労働力の余った時点だと思つて、今日の労働力が逼迫してきて求人難の状態、それから戦後の教育の影響か、労働環境の影響か、各労働者が仕事をを選んで選べるほど非常に少ないという時点になつてきているんじゃないかと思つて、選択の自由は法律によつて保障されているんですけど、なかなかある時点までは選べないんじゃないかと、相当の能力があれば別ですけども……。しかし今日になつてきまして、そういう普通の状態でも選べる、毎日の新聞の広告欄なんかを見ても相当な募集広告を出しているというのが実情じゃないかと、この求人難、それから会社側からみれば、一度入つた者の定着性が非常に薄いという面で困感している状態です。当社においてもやはり定期に採用したものは非常に定着率が高いんです、九十%です。中途で入れたものについては定着率が悪くて、場合によっては全部やめてしまうというところもあり得るわけです。

**G** 傷害保険です。もちろん交通も入ります。ともかくケガをしてお医者に行つて、医者の診断書があれば、全治二週間ということならば、毎日会社に出られるような程度の傷であつても見舞金として出します。

**司会** この保険料はどのくらいですか？

**G** 保険料は年払いでやつております。全額会社で負担しておりますから、大体一人、ちょっとかけ金は覚えておりませんけれど、保険金としては一人二十万から五十万までです。やつぱり毎月三、四人おりますですね。たとえば野球をやつて突き指したという程度のもも入るわけです。



これはぼくなりに判断しますと、途中入社というのはある面では、非常に優秀な者は別ですけれども、性格的な欠陥を持っているのではないかと、一つの物事に耐えられるか、耐えられないかという、普通の人だったら、定期に採用した人であれば、ほとんどの人が耐えてきている。その中で落伍するということは同じ仕事をやっている中で仕事、または人間関係の中でそういうものに耐えて、それを乗り越えてやるだけの辛棒強さが欠けている者が多いんじゃないかと思えます。したがって一度移ってしまうと二度三度の繰り返しというか、そういうような者も何%か構成していいやしないかという気がしてならないんです。

それから定着性の対策としては、やはり企業に入つた状態のうちは何年代によつてもいろいろ夢が変わると思えますけれども、持つてる夢、それから会社がその人間育成のための方策として、やはり生活設計を個人も努力し、会社もその方向に導くように持つていくべきで、なんらか考えなければならぬ、そういうような気がするんですが、そのためには、生活設計となりますとまず住居の問題ではないかと思えます。労働力を

入れる場合の条件として、いろいろ初任給とかなんかを列挙いたしますけれども、初任給だけでなくて、最近の方たちは昇給額までも知りたがっている、どのくらいになったらどのくらいの月収になるんだと、そしてわれわれは生活できるかできないかということ、そこまで明解に求めようとする、そういう徴候があるのではないかと思えます。それから大

体東京におりますと一つのワクの中で人を求めるのはむずかしいから、地方から求めると、これは必然に寮設備を持たざるを得なくなつてくる。それから転勤というような問題があつた場合には、当然会社が社宅を設置して、そういう条件を満たしてあげないとなかなかむずかしい問題が起こる……転勤をしたくないという事でやめるケースも出てくる。それから本人が将来の安定した生活ができるためにまず大きな住居の問題も会社が援助してやる必要がある。先ほども司会者の方ともいろいろ話したんですけれども、企業というものは福利厚生制度に対してどの程度まで果たさなければならぬ役割があるのか、そのへんは非常にむずかしい問題をかかえていながら、現実はそのような労働力の逼迫に

よつて、そういうものを一つの条件として入れなければならぬ。入れた場合は定着性を高めるためになおかつ生活に対して、ある程度導いてやらなければいけないし、経済的な援助もしてやらなければいけないというような実情になつてきています。

それから福利厚生とは離れますけれども、いまはだんだん新卒者が、特に中卒はほとんどないという状態でございまして、高卒自体も非常にむずかしくなつてきております。やがては生活程度もよくなるし、経済力も出てくるから非常に大卒者が多くなると、なかなか企業としてはそういう高い労働力を買えないから、やはり仕事と能力を持つている者で、やがては中途採用といひますか、労働移動に対して受け入れのできるような態勢を持つていかざるを得ないんじゃないかと考えます。そこには初任給からスタートしてこうなるというこじやなくて、他社歴のある経験者を採用するわけですから、それに対する対応さということも考えていかなければならない。それは賃金問題イコール諸条件の問題が当然出てくると思ひます。そういう問題が近い将来にはなんらか会社

として考えなければならぬものをもくろんで進めていかなければならないという気がします。まあ求人難と定着率の低いのをいかに高めるかということなんですが、企業の役割というか、現状の対策として申し上げたんですが、多くのそういう面を力を入れていく会社なんかは、特に優れているところがありますけれども、一つのをやるといふときに

なかなか英断を要する問題じゃないかと思ひます。その場合にはやはり世間でどういふふうに出ているかというのには非常に多くの資料が出ておりますから、そういうものをよく集めてその中で自社の特色を出していくということがいいんじゃないかという気がいたします。

### 司会

いまこれからわれわれが当面しなければいけないという重要な問題についてのお話しが出たわけですから、当然われわれ労働担当者というもの、こういう問題についてはっきりした意見を会社側に持つていただくような努力をしていかなければならないということ、これは不可避なことだと思ひます。ただこういうことを実施するためには、当然会社としての将来への大きな計画というものを持つたなければならぬし、ま

たそのためには現在のわれわれの力というものはさらに強めていかなければならないと、非常に大きな問題と取っ組んでしまわなければならぬわけですけども、いまのお話しについてDさん、なにかお話しをお願いできませんか。

**D** 私のほうも企業としてはそう大きな企業ではございません。計画を立てるということ、また実行につきましてもなかなかうまくいかないような現状でございます。それで求人と定着率、これにつきましては一応はいろいろ考えてはおりますんですが、私のほうの会社の行き方としましては、社長の方針といたしまして、やはり先ほど来お話しがありまして、やがて家族のという用語が語弊がありますが、できるだけ少なくて、いっでも気楽に話し合える、そういうような雰囲気をつくるというふうなことを一番の目標にしてやっております。特にこれといった特別なことはやっておりませんが、いま私のほうではお昼の食事を、これは全社員が食堂に集まりまして、毎日昼食を取るという習慣がついております。もちろん社長を初めほかの役員もそれに参加するのです。社

長あたりは一週間に多くて一度か二度ですけども、その場におきましては全然形式なしに、新しく入った者を紹介しあい、また社長その他の役員も声をかける。そういうふうなこと、また幹部の者がそういう食事を一緒にやるということは、やはり地方から来ておりますものが多いので、寮生が多いんですが、そういう人たちの食物に対する嗜好の問題などもいろいろ取り上げまして、できるだけ食事を楽しくやる。食べるということは毎日のことでございますので、食べながらいろいろ話し合っている、そういうふうな方法でほんとは和やかな雰囲気をつくるようにしております。

**司会** これは全額会社負担ですか？

**D** 大体まかないがございまして、個人の負担が一食三十円、平均いたしますと約一食八十円ぐらいになります。現在会社の負担が五十円ぐらいいたしております。

**司会** これは給料を別にして支給しておるわけですか？

**D** 人数が少ないもんですから、一応給料日に、出勤口数を合わせて徴収するようにしております。

**司会** Aさん、なにかございませぬか？

**A** ウチではやはり地方からとなると、住宅問題というのが当然問題にされますので、これは持家制度といえますか、そういうものにどんどん考え方を進めていったらいいんじゃないかと思ひまして、当面困っている人を隠密に調べまして、これをなんらかの具体的な方法で土地を求めて自力で家を建てられる人は建ててもらおう。また建てられない人は、会社で援助なり、なんなりすると、各個別に隠密に調べまして、そういうことを具体的に検討しています。

**司会** これは総務部なんかで？

**A** これは社長自らやります。そういうことと、もちろん相談を受けますが、そういう情報を大体調べまして、もちろん組合というものがありませんので、そういうことができるわけですね。

それから女子の従業員ですが、中学卒の人が非常に多いんです。都内からみんな入れているわけなんです。ことしあたりも四十名入れております。そうしますとその人たちの家庭というのは貧困家庭がとても多いわけですね、いまのような時世で高校まで入れられない家庭というの

は想像に絶するものがあるんです。もしくは精神薄弱児みたいな者もいるんです。そういうものを入れたって働く者がいなくなってしまします。そういうのはまあオミットすると、学校側のほうではどうしても抱き合わせで入れたいといってくるわけですよ、だからそのところをうまくやるということになるんです。

それから給料の問題ですね、たとえばそれが五百円高かったとするとサッと動くんですよ。そういう場合は賃金だけの問題でもないんですよ。やはりムードといいますか、自分たちの職場に若い男の人たちのリーダーがいるとか、そういうことによつて、とても助かるような、救われるような明るい雰囲気を持つていると、こういうものを求めているらしいですね。だから野球部で試合があると多勢で応援に行きますね。自分の私生活を会社に救いを求めているような傾向が認められるわけですね。ですからそういう面から考えていくと賃金だけの問題ではなく、たとえお正月の顔合わせのときでも、お歳暮にもらったものを全社員で福引で分けるとか、これはまあ金のかからない一つの方法ですが、そ

ういうところが大体最近あまり動かなくなつたように思います。賃金自体はそんなに高いものではないんです。それで生活保護を三分の一ぐらい受けているんじゃないかというように気がします。そうするとその人の家庭との連絡です、ね、こういうものに気をつけています。

それから悪い道に入つてはいけな  
いと、場所柄遊ぶ場所が多い新宿に  
近いところですから、そちらのほう  
をどちらかというと気をつけるよう  
にしています。

それから営業部関係の場合に、若  
い男子の人たちが多いんですが、こ  
れは工場関係ではあまり交渉はな  
いようですけれども、これはまた段  
階が違うといひますか、階層が違う  
といひますか、まあ若い人たちはマ  
ージャン大会をやると、そういう  
場合、会社でビールを出すと、じゃ  
やろう、こういうことでやっておる  
わけなんです、そういう点ではウ  
チの社長を初め……そういうことに  
無関心でありながらわれわれにまか  
していただけるだけで、わりかたス  
ムーズにいつておるようです。

**司会** それは会社の幹部の方が積  
極的にそういうものに取り組んでお  
られるというのがうまく実つた例で

ございますね。いまの問題でなんか  
お気付きの点はないですか、しさん  
いかがですか？

**L** ウチあたりはおかげさまで求  
人難ということは無いんですが、結  
局求人いたしません。それはだんだ  
ん機械です、機械を入れて補うと  
いう方針を取っております。家族的  
という点からは、ごく少数の人数で  
すからおのずと家族的になっており  
まして、やはりその場合健康保険会  
館、結局私どもの場合はああいうも  
のを利用するということになるんじ  
やないかと思ひます。それで会社と  
しては年に一回、秋に旅行をします  
けれども、やはりそれなんかも会社  
で全部負担しまして、従業員の希望  
です、どこに行きたいとか、大体  
従業員が行きたいところに行くとい  
うようなことでやっております。

**司会** いままでになかったお話で  
なにかご参考になるようなことはな  
いのですか？

**C** ここ十年間、十二月にダンス  
パーティをやっております。これは  
音楽愛好家がいっぱいバンド、いまそ  
の人たちにやってもらっています。

ここ二、三年は会場を東京ステーシ  
ョンホテルを借りまして、東芝のパ  
ンドとウチの愛好家のバンドと二バ

ンドで、会社も費用をいくらか出し  
てやっております。これは割合みん  
なに喜ばれておりますね。バンドを  
やるというのは若い人が多いんで  
す。やはり友達がやるもんです、か  
ら、つられてみんなやるんです。昨  
年なんかも三百名からの出席があり  
ました。こういうのは評判がいいよ  
うです。

**司会** これは会社のほうで応援し  
ておられるんですか？

**C** ええ、十万円ぐらい出してお  
ります。

**司会** その場合には社外の人もい  
いわけですか？

**C** なるべく社内の人で、奥さん  
とか家族の人です。

**司会** ただし彼女だけは許すと……  
……(笑)

**E** これは人間関係についてです  
が、これは大体七年ぐらい実行させ  
ていますが、毎朝出勤して仕事にか  
かる場合、その位置で「おはようご  
ざいます」それから帰るときには  
「さようなら」とこれを実行してお  
ります。そういうことで、新しい方  
が入られますと、よく顔もわからな  
いとか、覚えにくいとか、そういう  
こともございますので、そういうこ  
とでもしたらいくらか親近感があり

はしないかということをやっており  
ます。

それから毎月の一日に、前月の営  
業状態と、その月のいろいろな注意  
事項を話しております。

**司会** Iさん、社長が知らないな  
にかいお話しがありませんか？

**I** では最後になりましたんで、  
いままでお話しが出なかつた点だけ  
一つ申し上げてみたいと思ひます。

私のところでは労働組合もございま  
せんし、本社と工場が非常にかげ離  
れておまして、意思の疎通という  
点に少し難点があるんじゃないかと  
思ひわけなんです、そういう点で  
機関紙を発刊いたしました、三年ほ  
どになります、年四回、それぞれ  
原稿を集めましたものを印刷いたし  
まして、全従業員に配布するとい  
うことをやっております。これはい  
ろいろな従業員の意見を載せようと  
いうのが当初の目的でもあつたわけ  
なんですけれども、こういうものは  
労働組合でもありますと、組合を通  
じまして、そういう声が会社に伝わ  
つてくるわけなんです、そういう  
組織がないために、機関誌を通じ  
て、いわゆる上から下へ、下から上  
への意見を調整するといひます、  
そういうことができればこれは一番

理想的なんですけれども、なかなかそこまではいっておりませんけれども、だんだんそういう方向に持っていけるんじゃないかと思えます。  
司会 どうも長い間ありがとうございました。

## 業界人としての私

(その六)

大木 卓

その頃の商取引状況はというと、本舗と卸と小売との分野がはっきりしていて秩序正しいものであったし、殊に家庭薬業界は友親会（玉置合名会社、合名会社中田支店、福井薬業株式会社、それに大木合名会社の四軒）と他に同志会があったので、卸と小売との連繫も円満にいて東京の市場は定価販売が厳守され平和な発展を続ける事が出来た。  
過去に於て本舗との関係は濃淡いろいろあったわけだが、特殊なもののみ二三の取引を書いてみよう。  
森下博翁は仁丹を以って大成功を

された方であるが、明治三十五年に毒滅を以って大阪から東京に進出され初めて大木へ取次ぎを依頼されたと聞いている。仁丹はその発売を明治三十八年二月十一日の紀元節にされたのであるが、後年日本全国はもとより、支那大陸より亜細亜全域に販路を拡大され、仁丹王としての名声をほしいままにされたのである。何といっても当時の売薬業界に最高売上高を克ち得られたものであった。

次に印象深い取引としてメンソレタムの日本への販売成功を挙げる事が出来る。

仁丹は父良輔時代から扱ったもので、私自身が最初から手掛けたものにメンソレタムがある。この品物は世界的に売れていたが、大正九年近江セールの株式会社が滋賀県近江八幡に創立されてから、近江の兄弟ボリス、即ち、メルルボリス氏と吉田悦蔵氏によってキリスト教伝道と並行して日本での販売を開始せられた当初、私の所へその取引ぎを持って来られたのである。社員は佐藤安太郎支配人をはじめ全部がクリスチャンである上に根本がアメリカ式商法であったから、いろいろな点でその販売は特殊なものであったけ

れども、ボリス氏と吉田氏のコンビが素晴らしく且つ、極めて熱心であったので、後には日本国中誰一人として知らぬ者なき家庭薬として普及され世界の他の諸国に比べても遜色なきまでの成功を納め得たのである。現今貿易自由化、開放経済の時代に遭遇して一層感深い次第であるが、よくもあの時代にあれだけの成果を得られたものと思っている。これとてもボリス、吉田の両氏が私の意見を諒解し日本の国情、取引条件等にマッチした政策をとり入れたが為めであったと信じている。

その他あの時代に目立った売れ行きをみせたものにトツカピンがあった。それ迄の売薬は極めて定価の低いものであったのに急に一躍十円〇二十円〇といったような定価をつけ突飛な名前と相俟って大々的に新聞の広告をした事から一時は相当に売れたものである。昔からの有名家庭



薬がそれぞれ確実な販路を持ちつづけた事は勿論の事である。(つづく)  
(筆者は大木製薬・会長)

## ねばり続けれど

宮川 修一

堀内弘報委員長様から、趣味とか余技について書けとの申越をいただいたが、余りにも無趣味な自分には、今更ながら考えさせられます。私は元来音痴で、はにかみやなのだが、十年程前、ある友人から強引に小唄の稽古に引張り出されたのが始まりで、現在まで一カ月に一回か二回の稽古を続けているが、天性の音痴のためか、大して熱も上らず、従って上達もせず、他の芸道であったらとつくに破門されていると思われる。

ところが、私を引張り込んだ友人とて余り上達しないが、不思議と二人とも、あきらめるでもなく、今日までねばり続けて居るのは、個性の然らしむる故かと思われる。

最近、先輩より書道を一緒にやらないかと、すすめられている。

およそ筆と言うものに縁のうすい私、仲々その気になれず迷っていたが、満五十才を越した今日、何か一つ位、自分一人で楽しめる終生の余技として、私なりに満足の出来る道を修めたいと思っている。

六十の手習という言葉があるが、十年の早期入門とあれば、必ず書くことよるこびも、早めに会得することが出来る楽しみにしている。

(東京甲子社・取締役)

## 薬と共に 四拾有余年

(その一)

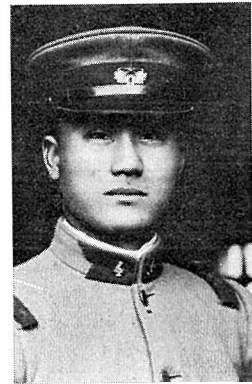
松田 金之助

大正時代は皇室崇拜の念が強く岐阜の山村から近衛兵に選ばれた事は最大の名誉であり、大正十二年一月十日私は同県の青年達と宿舍である神田美土代町の旅館に着きました。

入隊する部隊は近衛歩兵第四聯隊

で通称青山練兵場と云われて居りました。

その当時の山村の入隊者のスタイ



ルは殆どが紋付羽織袴と云ふスタイルが多くかねて洋服に憧れて居りました私は友人で村内切つてのモダンボーイの背広一式を借用ネクタイは無論結んでもらい得々として上京しましたものの再びネクタイは結べません。ええままとそのまま蒲団の中にもぐり込み昼間見た激しい東京の人波を思い浮べ、また明日への期待に寝つかれぬ眼を無理に閉ぢるのでした。

その折聯隊より古参兵が入隊者の再確認に来られ私の寝姿に驚かれ明日の遅れぬ用意かと賞められ却て恐縮したものでした。

翌日第三大隊第十中隊に入隊しました私はすっかり生活も一変し近衛兵にとって最も大切な皇居の守備に就く事になりました。

二重橋の歩哨に立った私は地方の

上京された方々が遠く皇居を遙拝されるのを、まるで自分にされた様な錯覚をする程嬉しいものでした。

千葉県出身の島田伍長勤務上等兵が戦友となられ、同年兵として不思議にも後年同じ薬業界に共に手を取り合い歩んでまいりました現製薬企業協議会専務理事武田猛君が居られました。

始めて耳にし口にもしたライスカレー、カツレツに馴れ上官の厳しい訓示にも夢中で耐え、数ヶ月後には上等兵候補に選任されほっと一息して始めて周囲を見廻すのでした。

「怪我すれば手当もしよう、死ねば葬式も出してやろう、一銭五厘で交代の徴兵が来るから安心して勤務せよ。」

これが軍隊に於ける初年兵への訓示でした。これに耐えられず病に倒れるもの精神的に落伍するものこの中にあり日夜訓練に励むのは容易な事ではありません。

入隊して八ヶ月の終り自分の生涯を通じて忘れ

る事の出来ない関東大震災に遭遇しました。同年九月一日その日は妙に暑くまた蒸しました。丁度午前中瀬川少尉指揮の下に代々木練兵場にて中隊演習が行われ終了帰隊しました我初年兵は何より楽しみの食事に我を忘れて居りました。

突然物凄い音と共に兵舎が揺れ四階に居りました我々は食器を持った儘あれよあれよとばかりでそのうち我れ勝ちに営庭さして馳けおりのた



前列右端が武田氏、後方一人おいて筆者

でした。

宮庭に集った初年兵は唯呆然とするばかりこの中に飛んで来られた上官は陛下よりお預かりした命より大切な銃を何故持たぬと嘯鳴られ揺れ動く四階に這う様にして銃を取りに行き再び宮庭に引返すのでした。

この時すでに地震に依る火災は市内の各地より真赤な焰となつて東京の空は赤黒い煙に包まれました。

皇居始め各宮家外国大公使館の準備が目的の近衛兵は直ちにその体制が布かれ私は渋谷にありませう久邇の宮家の守備にと急ぐのでした。市内の火事は益々拡大され当日の九月一日だけで目抜の殆どが焼かれ忽ち罹災者の群が流れる川の様になりました。この様な最中に流言ひ語が人の心を迷わし遂に町内自警団が生まれました。実弾三十発を与えられた我々は各自部署に就き警備に専念するのでした。

宮家は当時良子女皇様が御成婚を控えられて宮家の空気は戒厳令下の非常時と思えぬ華かな空気に包まれ軍隊とは異り三度三度の白米と数々の御馳走を毎日下賜され煙草、国華に初年兵の私は外界の凄惨な状況を忘れる程心楽しいものでした。

焼け落ちた都一望に黒一色の焦土

と化した家並廢虚にまだ赤く九月の月が照らしていたのは永久に隴より去りませぬ。(東海貿易・社長)

しゅみ・よぎ

## 弓と私

友田 真 二

「バシッ」「あたりー」一瞬の緊張がはぐれるにつれて気分は爽快になる。私が弓を始めたのは中学二年の時―急に背が伸び出し、やしを思わせたある日、品川の工場へ遊びに行くと、当時の工場長が弓に熱心で道場も構内に施設として作られ、工員にも自由に引かしていたが早速につかまり、胸囲を拡げるにはこれが一番と手ほどきを受けた時からである。

以来三十年、弘前高校時代は阿波範士、早稲田時代は浦上範士、渡辺範士、斎藤直芳先生他多数の先輩諸氏に鍛えられた。特に当時の早稲田は戦前よりの伝統を尊重し流派にとらわれず、しかも各派の長所を各人の

筋肉、骨法、経験の中に生かすとい

う恵まれた環境の中にあり、各流派を比較勉強する機会を得た。一方終戦後の圧力で武道は学校スポーツとして不適であると禁止され、弓も又同じ扱いを受けた。世界各国人類発生以来何等かの形で生活と共にあり又、米国ではスポーツとして洋弓が盛んであった事を知ったわれわれは文部省、武徳会関係のかたがたの尻ごみに若さの向こう見ずでに飛び込み、当時儀典長であったシュミッツ代将(洋弓の米国チャンピオン保持者)と直接談判し、洋弓・和弓交歓試合を開き―これは彼等の持つて来るタバコ、ガム、ビールが目当でもあった―又学校当局の理解ある援助もあり、柔、剣道にさきがけて同好会組織を作り、学校内道場を使用させて置き、各大学有志で六大学リーグ戦を復活し、今日の学生弓道復興のさきがけになったのも今では青春時代の良き思い出である。

爾來趣味の第一にあげる弓にとりつかれ現在は稲門体育会代表委員、東京都学生弓道連盟参与、全日本実業団弓道連盟常任理事等を拝命し、学生弓道、又職場のリクリエーションとしての実業団弓道の振興のお手伝いをし、シーズンに入れば選手の

一員として活躍しております。

物を投げる、飛ばす、又物をこわす、これは人間の本能ともいえますし、ストレスの多い現在、これを解消する早道といえます。パチンコの隠然たる流行は、これを裏づけております。弓もこの要素があります。矢を飛ばす、的を射抜く、しかもこの本能を満足させつつ無限に静止するの対峙し平常心を養う、ブルペンエース、けい古場横綱という言葉があります。野球も相撲も相手があり技術的な差はスキとして現われま

す。弓でも大事な試合に失敗する事がありますがこの場合相手は不動的であり、失敗は技を生かせなかつた精神面の弱さがすべてともいえます。的を見ている眼からの誘惑に打ち勝ち、充分に左右に伸び合(会といひます)心のスタミナを養う。―技術的にある水準迄達すれば心体の一体化をはかり深めるのがいわゆる弓道であります。

年齢に応じた力の弓で死ぬ迄やれてしかも一人でも多人数でも楽しめ一矢一矢に研修の味わいを試みられるスポーツ、又極度の緊張を一瞬にとき離す動作は神経を休め、末梢血管の血行を良くするとかいわれ、愛好者には長寿の方を非常に多く見受

けます。皆さんも如何ですか。最近若い人びとの間にアーチェリー（洋弓）が盛んになってまいり、メキシコの次のオリンピックから正式種目に入る様です。和弓も適中という点より見れば用具に改良が必要と思われこれもわれわれの研究課題であります。しかし伝統にみがかれ礼法とも結びついた日本弓の味は捨て難いものがあります。最近名取りになった小唄も親父より唱歌の域を脱し味が出て来たと冷かされており、弓についても一生がかりで味を深めて参りたいと念願しております。

（友田製薬・取締役）



## 〈委員会から〉

### 販売対策委員会

医療用薬品は別扱い

今回厚生省から医療用薬品を、他の医薬品と区別して取扱うと発

表されました。医療用医薬品とは主として医師又は歯科医師が使用する目的で作られた医薬品を云います。之等の医薬品は許可を申請する時その事を申出るのですが適否は厚生省で決めます。医療用医薬品の許可は厳重な審査をしますので諸種の資料の提供を必要とします。又一般人に対する広告が出来ない事になります。違反しても直ぐに薬事法違反とはなりません。10月1日から実施ですが今迄の物は大体来年6月頃迄猶予期間をとる様です。

この様な方針が打出されたのは今回の臨時国会で健康保険法の審議が行われた際、論議の焦点となつたいくつかの問題を反省したからだと聞いています。

問題になったのは、一、製造許可の姿勢が悪い、二、価格体系に理論的根拠が薄い、三、販売態度に問題があると云う事だそうです。組合員の大部分の方は医療用医薬品の製造はして居られないと思ひますが、無関係な措置だと見過ぎないで、この際国民の云わんとする処を良く見きわめて反省の機会とし、改む可き点はすぐに手を加え、より一層立派な物にしようではありませんか。

再販についても公取では未だ厳しい目をもって監視をしています。独禁法の解釈に問題があると云う事ですが之は専門家にまかせて置いて、家庭産業界の実状をおおいにPRしたいと思ひます。家庭産業界ほど立派な商標品は少ないと思ひます。その上、流通段階に於ける過大なマージンによって消費者に損害を与えて居るとも云えません。しかも一部の流通産業者は何の苦勞もせず我々の權益であるこの商標品を自己の利益追及の道具にし、盛んに廉売の對象としています。この様な状態を野放しにして於てメーカーのみが罪悪人だと云つた考え方が一部に残っているのは大変残念です。おおいにPRしようではありませんか。御協力お願い致します。

（津村重孝）

### 厚生委員会

かていやく・第七号掲載「福利厚生いろいろ」の座談会を過般労務委員会、弘報委員会共催で催しました。家庭薬メーカーの共通した問題の討議が行われ、誠に実益ある会合でした。当委員会も新に宇津救命丸が加入され毎月定例に第二火曜日

には会合を開き委員会活動について討議しています。九月十二日（火）の委員会の討議事項左記の通りです。

- (1) 組合秋季懇親会開催企画の件
- (2) T K G C に関する件
- (3) 基会に関する件
- (4) 弘報委員会提出報告原稿の件

以上

当委員会主催のゴルフ会、基会の現況について

(1) T K G C (ゴルフ会)

第10回 42年1月27日

優勝 平野国男 1等 堀正巳

2等 山崎栄二 3等 山崎寅

B B 中富和宏

第11回 42年3月16日

於東京国際カントリークラブ

優勝 山崎寅 1等 山崎栄二

2等 堀泰助 3等 秋山義郎

B B 山下昭男

第12回 42年6月8日

於霞ヶ関カントリークラブ

優勝 秋山義郎 1等 中村源三

2等 地葉一郎 3等 堀泰助

B B 友田真二

第12回は二年目のファイナル戦でグランドカップのとり切りを兼ねて開催しました。結局カップのとり切り者は秋山義郎氏に決定しました。新

カップ第一回は組合の旅行会を兼ねて開催した。

第1回 42年6月30日

於大箱根カントリークラブ

優勝 友田真二 1等 太田昭

2等 歌橋一典 3等 堀正巳

B B 飯島明正

現在会員数 32名

(2)東京家庭薬基会

現在会員数二十九名、日本棋院中央会館の好意で毎回八重州口の中央会館特別室にて開催しております。成績は左記の通りです。

第1回 42年3月18日

優勝 茂手木秀一 初段4戦4勝

2等 飯島明正 初段3勝1敗

3等 中島楨夫 3級3勝1敗

4等 村川清 3級3勝1敗

第2回 42年7月22日

優勝 中島楨夫 3級4戦4勝

2等 島崎辰二 6段格4戦4勝

3等 飯島明正 初段3勝1敗

4等 茂手木秀一

2段格3勝1敗

### 事務局だより

六月二十九日、東京都家庭薬工業協同組合懇親会を、箱根強羅花壇で開催致しました。午後一時三十分から同好の士による麻雀、囲碁大会を

和やかに行了ました後、新趣好の福引を引いて楽しみ、午後六時から懇親会に移り余興を織まぜて和気藹々の懇談を致しました。翌朝八時三十分朝食後参加者四十名が盛況裡に散会致しました。

自九月十八日至十月五日(工場見学を含む十七日間)東京都商工指導所主催にて東京医薬品工業協会、東京医薬品卸協同組合、東京薬貿協会、東京都家庭薬工業協同組合の四団体が協催で、中小企業幹部研修会を東京薬業会館で開講しましたが、参加者は五十九名に達しまして極めて有意義な催となりました。

九月二十五日、過日大水害を蒙った新潟山形地方へ家庭薬の詰合せ箱を十二梱包、救済物資として送付致しました。家庭薬の供出会社は二十六社、二十七品目、総額三七六、五六〇円に上りました。被災者の方々に深い感銘を与えることと存じます。

昭和四十二年秋の表彰には次の方々が栄えある表彰をされました。

昭和四十二年十月一日

東京都知事表彰

山崎栄二殿

(金冠堂・社長)

昭和四十二年十月四日

藍綬褒賞

坂本藤四郎殿

(東京不二製薬・社長)

昭和四十二年十月四日

藍綬褒賞

松田金之助殿

(東海貿易・社長)

昭和四十二年十月十六日

厚生大臣表彰

津村重舎殿

(津村順天堂・社長)

昭和四十二年十月十八日

東京都知事褒賞

秋山市郎殿

(秋山錠劑・社長)

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

各薬業界団体だより

九月二十一日午後五時から中央区日本橋「ジュン」で参加者七十二名の多数によって、東京薬友会主催第九回麻雀大会を開催致しましたが、熱戦の末栄えある入賞者は左記の通りです。

一等 プラス五三 時任肇一殿

(津村順天堂)

二等 同 五三 伊藤哲生殿

(フマキラー)

三等 同 四八 加藤良一殿

(町田製薬)

四等 同 四八 友原国祐殿

(日本ゼッキクス)

五等 同 四四 宮本嘉胤殿

(和光堂)

六等 同 四二 大島美治殿

(参天製薬)

七等 同 三九 豊田雅一殿

(参天製薬)

八等 同 三六 新 礼殿

(フマキラー)

ブービー賞

マイナス五三 寺島三郎殿

(太田胃散)

《後記》この誌の印刷に商売ぬぎで協力してくれる彩文社の佐藤勉夫氏のこと、ここで感謝の意を表したいと思っておりました。深謝々々(ゆ)

東京都家庭薬工業協同組合報

かていやく 第八号

昭和四十二年十一月五日発行

編集・印刷・発行

東京都家庭薬工業協同組合

東京都中央区銀座東八丁目十五

番地二

電話(五四三) 一七八六